

臓器移植ってなんだろう？

人間の中から、心臓・肺・肝臓・腎臓などの臓器があり、それぞれが決められた仕事をしています。

でも、薬や手術では治せないほど臓器が機能しなくなった時、亡くなった方のまだ健康な臓器と交換することで元気なからだを取り戻

す治療法が「臓器移植」です。臓器を提供する人をドナーといい、移植を受けられる人をレシピエントといいます。



脳死と心臓死

人が臓器を提供する場合の「死」には、2種類あることを知っていますか？

1つは、心臓が止まって血液が流れなくなる「心臓死」です。こうなった人からだと、だんだん冷たくなっていきます。心臓死の場合に提供することができる臓器は、腎臓・膵臓・眼球です。

もう1つは、「脳」が機能しなくなる「脳死」です。事故や病気などで脳が傷ついて、すべての機能を失ってしまうと、意識がなくなり、呼吸は止まってしまいます。しかし、機械を使って、酸素を肺に送ると、心臓

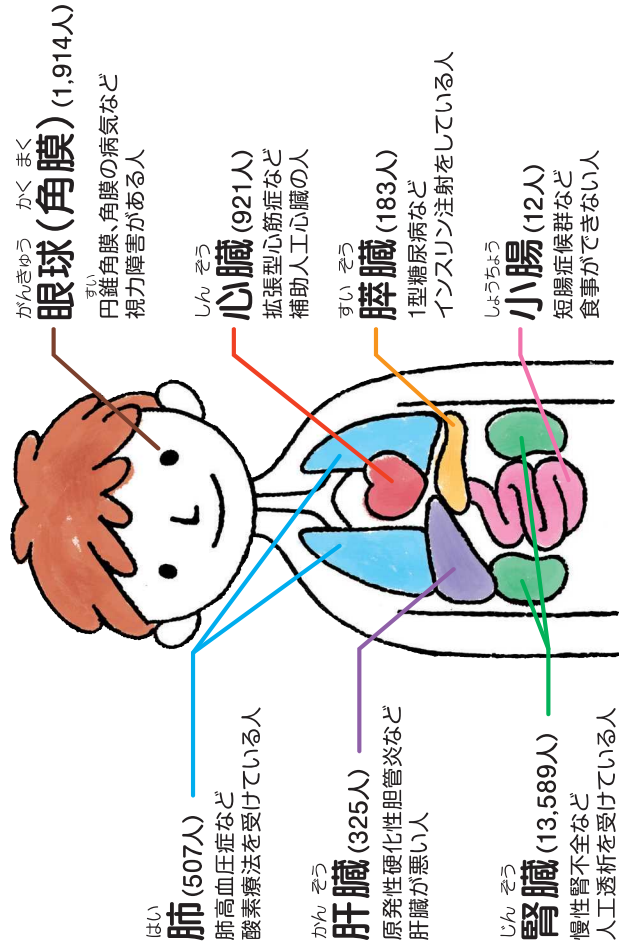
はしばらく動き続け、このとき「からだはあたたかい」状態です。しかし、一度「脳死」の状態になってしまうと、もとの元気な姿にもどることはなく、やがて心臓も止まってしまいます。多くの国々では、脳死は人の死とされています。日本でも1997年に臓器移植法(臓器の移植に関する法律)ができ、**脳死で臓器を提供する場合には限り、脳死を人の死とすることになりました。**

脳死の場合に提供することができる臓器は、心臓、肺、肝臓、腎臓、膵臓、小腸、眼球です。

移植が必要な患者さんはどれくらいいるの？

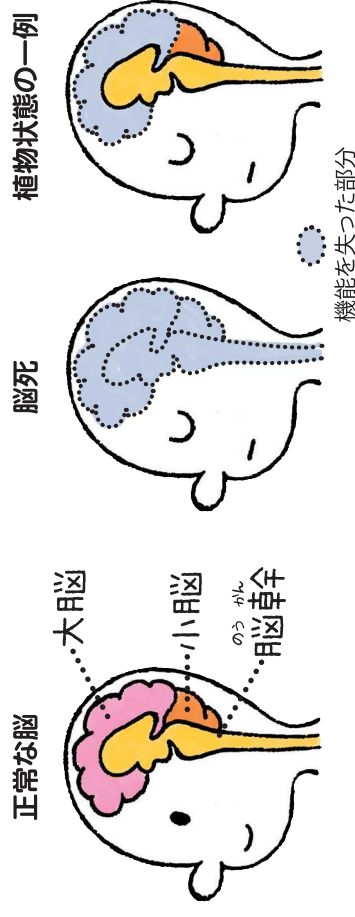
臓器移植ネットワークとアイバンクに登録できる臓器と主な病気

(令和4年6月30日現在の移植希望登録者数)



※(公社)日本臓器移植ネットワーク及び(公財)日本アイバンク協会調べ

正常な脳、脳死、植物状態の一例



意識がなく、脳死と同じように見える植物状態は、脳幹の機能が残っていて、自分で呼吸できることが多く、回復する可能性もあり、脳死とはまったく違います。